

総合計画審議会委員からの意見等への対応方法一覧

資料3-1

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
1	意見・提案	全体		全体として、時代性をもう少し反映した内容にする、民間の力を活用して一緒に取組む内容を記載するなど、内容を充実していったらどうか。	第4回	後期基本計画では庁内部局の横断的な取組や市民、民間との連携を重視しており、その考えを踏まえて9つの重点テーマと取組の方向性を掲げています。
2	意見・提案	全体		企業、NPO、各種団体との協働について、もう少し全体で打ち出した方が良いのではないかと。例えば「33 情報共有の推進」では、ビッグデータの提供などが創業支援につながることもあるので、そういうことがこれからは非常に重要だと思う。	第6回	同上
3	意見・提案	全体		共同の指標を設ける、あるいは他のページにある関連する施策を示すなどの項目を跨いだ工夫が必要なのではないか。	第5回	「この施策とこの施策は繋がっている」というように、表現を工夫します。
4	意見・提案	全体	施策の指標	活動指標を設定しようとしているのか、成果指標を設定しようとしているのか明確になっていない。もう少し整理していただきたい。	第3回	本来成果指標が良いと思うが、施策ごとに置く指標が、非常に取りづらいものがあります。方策については全体的に検討したいと思います。事務事業調書の中でも見直しをしており、その中で成果指標を取って達成率につなげていくなどの方法もあると考えています。
5	意見・提案	全体	施策の指標	例えば、男女共同参画社会の実現や安全安心の地域づくりは、「市民がどう感じているか」ということが重要である。指標も、できれば市民意識調査等において、市民が実際にどう感じているのかというところを拾い上げ、その割合をどの程度まで引き上げることを目指すのかといった設定の仕方が望ましいのではないかと。	第3回	平成18年頃までは全ての施策展開の項目において市民意識調査を行っていましたが、それ以降は定量的に意向を調査するという作業は行っていません。今の段階で、市民の想いの指標を統一的に取ることは非常に難しいと考えています。一方で、個別計画の中で市民の意向調査を行っているものもあり、指標に設定しているものもあります。後期基本計画に関しては、全般的に意向は調査しない方向で考えているので、今後の課題とさせていただきたい。
6	意見・提案	全体	施策の指標	例えば「7 共生社会の実現」のところに詳細施策が4つあり、想定事業が並んでいる中で指標の「1 審議会などへの女性参画率」「2 多言語対応している市発行印刷物数」が挙げられているが、なぜこの2つがここに出てきているのか。他の全ての施策についてよくわからない。	第3回	「目指す姿」を客観的に表すであろう指標について、代表的なものとはどのようなものかということで全庁的に調整しながら選ばせていただいております。
7	意見・提案	全体	施策の指標	相談の仕組みをつくる、情報を提供するなどの取組があるが、相談に来れない人たちへのアウトリーチをどう考えていくかの方が大事ではないか。指標が、「就労ができた」「進学した」というポイントではなく、「相談件数が増えた」という方が大事ではないかと思っている。	第3回	同上
8	意見・提案	11 序論	計画の基礎条件 (3)財政状況	歳出をしっかりと抑制していくということがあまり見えてこない。戦略的に抑制していくことを考えないといけないのではないかと。色々なところと連携しながら財政の面でも健全化を図っていくところが、若干弱いのでは。そういう視点を市民と共有していくべきではないかと。	第3回	計画全体として、官民連携の取組を進めることが伝わるよう表現の工夫を図ります。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
9	意見・提案		重点テーマ		第7回	例えば「(4)いのちを育て・守り・支える」が、福祉の分野だけでなく、運動との連携にも関係します。重点テーマの考え方として、基本的には4つのまちづくりの目標を横断的に扱うテーマを入れているが、どの目標と重点テーマが関係するのか分かりやすく表現することについては検討します。
10	質問		重点テーマ		第7回	防災は大事なテーマであるが、市長マニフェストとの関係や、他のテーマとのメリハリの中で、今回は項目としていません。防災の文言をどうするかについては検討します。
11	意見・提案		重点テーマ		第7回	同上
12	意見・提案		重点テーマ		第7回	重点テーマについては、市長のマニフェストにある9つの重点テーマベースに、地方版総合戦略の中の経済の循環や子どもを産み、育てやすい環境づくりといった重点的な取組を統合した形で置いています。総花的ではないかということについては否めませんが、市としてはこれを中心に様々な取組を進めながら他に波及させていきたいと考えています。
13	意見・提案		重点テーマ (1)豊かな自然や環境の保全・充実	参考資料	第7回	「環境活動の経済性を伴った仕組みづくり」とあるが、環境関係の活動は必ずしも採算性が合わない場合もあり、経済性を追求していたのでは十分な環境保全につながらないこともある。経済性を伴う仕組みを充実していく必要性はあると思うが、それだけでない、自発的なボランティアな活動や、その活動を支える仕組みづくりも必要なので、その部分が落ちてしまわないような表現の工夫が必要ではないか。
14	意見・提案		重点テーマ (2)課題山積の時代を担う人づくり		第7回	表題が、「課題山積の今を若者たち、子どもたちに託す」ととられかねない。問題解決能力や、問題を発見できる能力が、若者にとっても大事で、教育の現場でもそういったところを育てているので、そのような表現に変えた方が受け入れられやすいのではないか。
15	意見・提案		重点テーマ (2)課題山積の時代を担う人づくり		第7回	学校教育、特に子どもに対しての様々な機会の提供が必要だと思うが、教育現場まで踏み込んで、全体の体系化を図ろうとしているのか。どのあたりを視野に入れてようとしているのか分からないので、そのイメージがクリアになるような表現の工夫が必要ではないか。
16	意見・提案		重点テーマ (2)課題山積の時代を担う人づくり		第7回	学んだことを生かして地域を作っていくという中で、生涯学習政策が大きく転換しているという印象を受けた。人材を育成するという方向としては正しいし、色々な自治体で成功が生まれてきているので頑張ってもらいたい。

No	種別	ページ	該当箇所		委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
17	意見・提案		重点テーマ (2)課題山積の時代を担う人づくり (3)地域コミュニティモデルの進化 (4)いのちを育て・守り・支える		地域コミュニティ、地域包括ケア、人づくりなどは、つながりづくりというのが重要な政策群である。まだ仲間でない人と、どこかで出会ってつながりをつくるという難しいことが求められている。つながりづくりという視点で、まだ見知らぬ人、孤立している人と、どう関係性を作っていくかといった政策的な方向性を重視してほしい。	第7回	地域の中で孤立しがちな方々を、いかに今活動されている方とつなげていくかというところを工夫しながら、色々な事業を通して進めていきます。
18	意見・提案		重点テーマ (3)地域コミュニティモデルの進化 (4)いのちを育て・守り・支える		地域コミュニティと、地域包括ケア、ケアタウンは非常に関連している。地域政策課と、地域福祉等を担う課で、横の連携を持って一体的に進めた方が良いのではないかと。	第7回	地域コミュニティの施策としては、福祉、環境、防災といったものが、地域の非常に関心の強いテーマとして取組が進められており、庁内一体になって引き続きこの取組を進めていきます。
19	意見・提案		重点テーマ (4)いのちを育て・守り・支える		「妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援」とあるが、教育分野が入っていない。教育から18歳、福祉のところまで含めた支援体制が必要ではないかと。	第7回	子育て世代包括支援センターを全国展開していくという国の政策の中で、「妊娠期から子育て期まで」という言葉を使っているため、まずはこのように表現しています。ご指摘のとおり、切れ目を作ってはならないということは十分認識しているので、教育の部分との連携に十分配慮しながら取組を進めていきます。
20	意見・提案		重点テーマ (4)いのちを育て・守り・支える		セーフティネットの充実も主な取組に含める必要があるのではないかと。	第7回	セーフティネットについては、既存の施策(1 地域福祉の推進)でも当然取り組んでいきますが、経済的な格差や困窮の状況に応じてどのような打ち手を打っていくかなどの議論については、重点テーマ(5)「分かち合いの社会」の創造でも議論していきたいと考えています。
21	意見・提案		重点テーマ (4)いのちを育て・守り・支える		災害への対処などをこの中に含めなくて良いのか。	第7回	「いのちを守る」という中で直結する文面は入っていないので、この部分については検討します。
22	意見・提案		重点テーマ (5)「分かち合いの社会」の創造	参考資料	説明文に主語が無い。誰が取り組むのか明確にしておいた方が良いでしょう。また、行財政改革の取組の施策のどこに関連してくるのかが分かりづらいので、もう少し分かる表現にしておいた方が良いでしょう。「分かち合いの社会」づくりという言葉自体が目新しいので、内容が分かるような解釈文を入れるなど、加筆すると良くなるのではないかと。	第7回	まずは懇談会を設置し、有識者の方を入れながら議論をしていきたいという状況です。その中で、受益と負担や経済格差の問題などを議論し、行財政運営のどこで生きてくるのかというところを整理したいと考えています。全体の考え方を整理したうえで、具体的なアクションに進んでいく流れを考えており、その際には行政も市民も主体になってくると考えています。一義的には、方向性を検討する段階では行政が主体的にと考えています。
23	意見・提案		重点テーマ (6)「観光」による地域経済活性化	参考資料	定住促進の取組の中で、文末に「ひとの流れを生み出します。」とあるが、交流人口を増やすイメージに取れてしまい、定住までつながらない締めくくりになっている。文末は「その先に定住を目指します。」と入れた方がいいのではないかと。	第7回	本市では交流から定住へということで取組を進めてきています。ただ、定住策は具体的に育っていない状況であり、このような表現になっています。今後の打ち手として、定住の部分も含めて表現を検討します。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)	
24	質問		重点テーマ (9)基礎自治体としてのあり方の見極め	文書の最後が、「基礎自治体への進化を目指します。」になっているが、以前の資料では「研究と協議を進めます。」であった。今回変更した考えを伺う。	第7回	文中、「合併や中核市移行について協議を進めるほか、広域連携のさらなる強化に向け、検討を行います。」とあり、文末が「研究と協議を進めます。」では意味が重複してしまうことから、今回見直しをして整理しました。	
25	意見・提案		重点テーマ (9)基礎自治体としてのあり方の見極め	定住人口が増えなければ基礎自治体としての条件も成立できなくなることから、定住促進は、「(9)基礎自治体としてのあり方の見極め」に含めた方が良いのではないかと。	第7回	「(9)基礎自治体としてのあり方の見極め」は、都市制度上の位置づけという議論の部分であり、ある意味すべての施策を包含した基礎としての制度上のあり方、近隣との関係も含めた自治体のあり方を枠組みとしての考え方を整理していこうというものです。定住促進については(6)で整理します。	
26	意見・提案	31	基本計画 1 地域福祉の推進	詳細施策	「ケアタウン構想の推進」のように、地域そのものをつくっていく施策もある。各施策が連携して取り組めるように、市が地域に投げかけていかなければならない。地域政策課が所管している地域コミュニティ組織を中軸にして整理していくことが適切ではないかと。	第3回	ケアタウン構想は、まちづくりにおける福祉分野の理念であり、地域コミュニティ組織を踏まえて、推進していくことが適切と考えています。
27	意見・提案	31	基本計画 1 地域福祉の推進	詳細施策	地域福祉の推進に関して、想定事業では「交流の場づくり事業」があるが、小田原はもとも他自治体に比べて各コミュニティ地区に拠点を整備するというのが弱かった。もう少し、拠点について工夫をするような方向性が今後望ましいのではないかと。	第3回	「交流の場づくり事業」では全市域で活動している各種団体の拠点確保を想定しています。地域に根ざした団体の活動拠点についてはケアタウン推進事業や地域コミュニティ推進事業の中で地域の実情に応じた支援をしていきます。
28	質問	31	基本計画 1 地域福祉の推進	詳細施策	地域包括ケア関係で行うべき会議体の組織エリアをどのように考えるか。	第3回	地域包括ケア関係で行う会議体は、地区自治会連合会ごとを想定しており、その地区を組み合わせ、市域に12の日常生活圏域を設定しています。
29	意見・提案	31	基本計画 1 地域福祉の推進	詳細施策	「ケアタウン構想の推進」「地域福祉活動の充実」の双方に係るが、双方で同じ担い手が携わっている。社会福祉協議会の活動や民生委員・児童委員の活動などとケアタウンの活動も被っていることがあり、住民が関わりやすい組織のシンプル化が必要ではないかと。	第3回	ご指摘のとおり、様々な取組主体が活動しており、整理も必要であると考えている。
30	質問	31	基本計画 1 地域福祉の推進	詳細施策	施策の指標「3生活保護世帯における中学3年生の高等学校進学率」について、どういった施策で指標となるかが分かりにくい。現在行っていること、これから計画していることについてお聞きしたい。	第3回	想定事業一覧2ページ、「生活支援事業」中の「学習支援事業」が個別の事業として該当します。現在、原則として生活保護世帯の中学生を対象に、週に1度、約2時間ほど学習支援を行っています。子どもたちの学習能力の向上の面もありますが、居場所づくりという面からも行っており、引き続き行っていきたいと考えています。

No	種別	ページ	該当箇所		委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)	
31	意見・提案	31	基本計画	1 地域福祉の推進	詳細施策	生活保護世帯への支援として、入進学時のランドセルや洋服など、通年の費用ではなく特別費用的な支援を考慮してほしい。	第3回	生活保護を受給されている家庭は教育扶助で支給されることになっています。生活困窮者は、県等で教育に関する様々な助成がありますが、利用されていない方もいるので、そのような方々の抽出が必要と考えています。
32	意見・提案	32	基本計画	2 高齢者福祉の充実	現況と課題	現況と課題の「平成37年度には、高齢者人口56,500人」とあるが、指標の目標年が異なるので、平成34年度で統一した方が良いのでは。	第3回	平成37年度は、いわゆる介護保険の関係で団塊の世代が75歳以上になる年代として記載しているため、施策の指標の最終年度とは違う年度を採用しています。
33	質問	32	基本計画	2 高齢者福祉の充実	詳細施策	高齢者の終末期医療について、どこの施策で検討されているのか。	第3回	想定事業一覧2ページ、「地域包括ケア推進事業」の中で、重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続できるよう、地域包括ケアシステムを推進するという中で行っています。
34	意見・提案	32	基本計画	2 高齢者福祉の充実	詳細施策	「1高齢者がいきいきと活動できる環境づくりの促進」では、高齢者の生きがい対策ということのみならず、高齢者の就労支援も考える必要があるのではないかと。	第3回	高齢者の経験や能力を活かし、臨時的・短期的な仕事を提供するシルバー人材センターへの支援等を通じ、高齢者の雇用・就業機会の確保を図ります。
35	意見・提案	33	基本計画	3 障がい者福祉の充実	詳細施策	難病患者についての施策を考えた方が良いのではないかと。	第3回	難病に関しても障害者総合支援法の対象となっているため、障がい福祉サービスを利用していただき、対応しています。
36	意見・提案	33	基本計画	3 障がい者福祉の充実	詳細施策	難病を持つ子どもの親の苦労を軽減できるような施策を考えても良いのではないかと。	第3回	都内の病院では、遠方から治療に来るご家族向けに滞在施設や面会時の兄弟の預かり施設をもっているところもあります。市内でもレスパイト入院ができる施設もありますが、長期療養の子どもの親に対して負担を軽減できる方法を、他機関と連携し考えていきたいと考えています。
37	意見・提案	33	基本計画	3 障がい者福祉の充実	詳細施策	「4就労と社会参加の促進」で、障がい者の特性を生かした新たな起業を支援するというような視点も必要ではないかと。	第3回	特性をお持ちの障がい者の方の就労についても、生活支援センターを通じて就労を図っていくとともに、事業所等と連携しながら就労の機会に向けて進めていきたいと考えています。
38	意見・提案	34	基本計画	4 健康づくりの推進	詳細施策	スポーツについての言及が出てこない。健康づくりの重要な柱になるはずなので、スポーツの記述も入れていただきたい。	第3回	スポーツに関する施策については、56ページの「23 生涯スポーツの振興」で記載しています。施策間の連携については表現を工夫します。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
39	意見・提案	35	基本計画 5 地域医療体制の充実	施策の指標	第3回	一次救急医療というのは市の役割、責務です。目標値の人数に対応できる体制を築いているということで、きちんと休日夜間急患診療所に対応できることを表しているの、ご理解ください。
40	意見・提案	36	基本計画 6 市立病院の機能拡充と健全経営	詳細施策	第3回	当該項目は、安定的に周産期医療を提供するための産科・小児科医の確保を特に謳ったのであり、児童精神科医は含まれません。計画に明示していない診療科については、市立病院の役割や経営状況、地域医療における必要性を踏まえて検討していきます。
41	意見・提案	36	基本計画 6 市立病院の機能拡充と健全経営	詳細施策	第3回	病院の建設は順調に行っても後期基本計画期間中での完了は困難であり、用地の選定・確保等不確定な要素もあることから、「平成34年度までにここまで」と言うのは困難です。来年度から、新病院の規模・機能や建設スケジュール等を決定し、実施計画に位置付けたうえで着実に進めていきたいと考えています。
42	意見・提案	36	基本計画 6 市立病院の機能拡充と健全経営	詳細施策	第3回	今までも、現地の建替え、移転での建替えということ全て含めて「再整備」という言い方をしてきたので、今回もその表現は変えていません。ご理解ください。
43	質問	36	基本計画 6 市立病院の機能拡充と健全経営	施策の指標	第3回	経常費用(医業費用と業外費用)に対する経常収益(医業収益と医業外収益)の割合を示しています(経常収益/経常費用×100)。この割合が100%を超えると経常収支で黒字ということになります。平成34年度は黒字を目指すということで設定しました。
44	意見・提案	37	基本計画 7 共生社会の実現		第3回	前期基本企画を策定した際にも、「共生社会の実現はこの項目なのか」という議論はありました。大きな政策展開の中で多様性という観点から「市民自治・地域経営」という可能性もありましたが、「共生社会の実現」は、暮らし全般の基本になる考え方でもあり、表題的には「暮らしと防災・防犯」ということで書かせていただいています。市の組織とも連動しており、このような形で体系にさせていただきます。
45	意見・提案	37	基本計画 7 共生社会の実現	施策の指標	第3回	市内には、多くの外国籍の方が住んでおり、そのような方に支援をしていくという趣旨の事業の一つの目標として、生活支援に関わる情報を、多言語で表した印刷物でお知らせすることを掲げています。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
46	意見・提案	38	基本計画 8 災害に強いまちづくり	詳細施策	福祉避難所の整備はどのようになっているのか。計画されているようであれば、この中に記していただいた方が良いのではないか。	第3回 詳細施策1にある「地域防災計画」の中で、福祉避難所だけではなく、広域避難所、広域避難所二次施設なども網羅した形で位置づけています。
47	意見・提案	38	基本計画 8 災害に強いまちづくり	詳細施策	「2地域防災力の強化」について、防災教育の充実にも力を入れていくべきではないか。	第3回 講演会、防災訓練、出前講座、自治会の集まりでの情報提供などを通じて、市民の方々に防災の意識を高めるような働きかけをしていきます。
48	質問	38	基本計画 8 災害に強いまちづくり	施策の指標	「防災訓練参加者数」は、総合防災訓練、いっせい防災訓練などいろいろあるが、何の防災訓練なのか。	第3回 総合防災訓練、いっせい防災訓練及び単位自治会で自主的に行っている防災訓練の参加者数です。
49	質問	39	基本計画 9 消防・救急体制の充実	詳細施策	本来救急車を必要としない要請が課題とされているが、こちらの対策が書かれていない。どのように考えているか。	第3回 救命講習の席や救急の日のイベントを通じて適正な利用をお願いしており、平成22年度頃は入院を必要としない患者の救急車利用は50%を超えていましたが、平成27年度の利用者は42%まで低下しています。今後もこういった活動を続けていきます。
50	意見・提案	40	基本計画 10 安全・安心の地域づくり	詳細施策	安全安心メールといった情報の提供に力を入れるべきと考えるが、施策に盛り込まれているか。	第3回 情報の提供については重要なことと認識しているので、施策の具体的な事業の中で実施していきます。
51	意見・提案	41	基本計画 11 子育て環境の充実	基本方針	基本方針に「国の支援の新メニューも柔軟に活用していく」といった方向性を打ち出しておくべきではないか。	第3回 基本方針は修正せず、事業の実施においては、国の新たな支援メニューを活用するなど、柔軟な対応を図ります。
52	意見・提案	41	基本計画 11 子育て環境の充実	詳細施策	乳幼児健診から保育園、幼稚園に行くまで、絶え間がない支援体制をつくってほしい。相談体制に切れ目のない一貫したケアの仕組みを、「11 子育て環境の充実」「12 青少年育成の推進」「13 学校教育の充実」の分野で連携してつくってほしい。学校での支援と学童の支援、あるいは保育園から学童への支援の引継ぎも視野に入れて、子どもの支援を考えてほしい。	第3回 乳児から就学後まで見据えた支援システムの構築が課題であると認識し、庁内関係各課で話し合いを進めており、組織の見直し等も含めて検討したいと考えています。現状では、学童で支援を要する子どもを受け入れる際も、必要に応じて、面談を実施し、事情の把握に努めています。
53	意見・提案	41	基本計画 11 子育て環境の充実	詳細施策	「5発達に課題がある子どもへの支援」で、保育所においても保育士の加配に取組んでいくべきではないか。	第3回 公立保育所の場合は臨時の保育士を雇用するという、民間保育所については雇用のための人件費の補助をするということで、それぞれ予算を増額して対応しています。現場での実情に応じた適切な加配ができるように努めます。

No	種別	ページ	該当箇所		委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)	
54	意見・提案	42	基本計画	12 青少年育成の推進	詳細施策	スクールコミュニティとコミュニティ・スクールについて、対象となるのは「子どもの育ち」である。学校という一つのエリアの中での関わり方として、共通点多々ある。市民に分かりやすい、取り組みやすい整理をしなければいけない。方針として、スクールコミュニティはずっと後期基本計画の期間中やりきるのか。	第3回	スクールコミュニティについては、平成34年度までに全ての地区での実現を目指します。それぞれの事業の目的は異なりますが、地域の力を活かし子どもを育ていく環境づくりという方向性は共通しているため、今後わかりやすい形で整理をしていきます。
55	意見・提案	43	基本計画	13 学校教育の充実	詳細施策	学校自身が地域に開いていく、出ていくということも含んだ表現として、施策を推進していくことが重要ではないか。	第3回	ご指摘のとおり、学校自身、教師自身が地域に出ていかなければいけないというのは感じており、そういう視点でも取り組んでいきたいと思います。
56	意見・提案	43	基本計画	13 学校教育の充実	詳細施策	学校教育の充実には、専門家との支援・連携や、第三者の目を入れていくことが大事ではないか。心理専門職の活用を考え、常勤に近い心理専門職が地域にも出ていき、母親や先生の支援もして、また学校につなぐというような仕組みができればと考える。できれば保健センター、健康づくり課、障がい福祉課、教育関係にも専門職を置いていただき、常勤で連携をとってもらいたい。	第3回	現状、教育指導課に2名、非常勤の職員が週4日の勤務で勤めています。あわせて通級指導教室に1名、週4日心理相談員を入れています。相談室「あおぞら」では、もう少し少ない日数で雇用していますが、非常勤ではあるが勤務日を週4日にして、強化していきたいと考えています。
57	質問	43	基本計画	13 学校教育の充実	詳細施策	福祉との連携が必要な家庭が増えていて、教師の業務を圧迫しているのではないか。スクールソーシャルワーカーとの連携、障がい福祉課、生活支援課との連携など、小田原市としてはどのように考えているか。	第3回	スクールソーシャルワーカーについては県の配置になりますが、小田原市に週1日は勤務できるような状況です。担当者がローテーションを組んで、市内36校を中心に回っています。また、年2回、福祉の担当部署やソーシャルワーカー、学校関係者が集まって情報交換、学習会等を開催しています。
58	意見・提案	43	基本計画	13 学校教育の充実	詳細施策	「12 青少年育成の推進」の中でのスクールコミュニティの形成と、「13 学校教育の充実」の中でコミュニティ・スクールを推進していくというところで、共通しているものと役割が違うところがある。このあたりの整理が後期基本計画では必要ではないか。	第3回	コミュニティ・スクールは、学校運営に地域の意見を反映させる「学校運営協議会」を組織し、地域と協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えるための仕組みであり、地域とともにある学校づくりを推進する学校を主体としたものです。スクールコミュニティは、地域ぐるみで子どもを見守り育てるという理念に基づいて、地域が主体となり放課後等に学校や公民館等を活用した子どもたちの居場所を提供する取組です。それぞれの事業の目的は異なりますが、地域の力を活かし子どもを育ていく環境づくりという方向性は共通しているため、今後わかりやすい形で整理をしていきます。
59	意見・提案	43	基本計画	13 学校教育の充実	詳細施策	「5安全・安心で快適な教育環境の整備」について、「新たな教育ニーズへの対応が求められる施設の整備と充実に努めます。」という文言はどのようなことを指しているのか理解しにくい。もうすこしわかりやすい表現にした方が良くはないか。	第3回	「新たな教育ニーズ」については、常に変化していくものであり、特定するのは難しいため、特に具体的な記述は行いません。
60	意見・提案	43	基本計画	13 学校教育の充実	詳細施策	施設の複合的な活用を国が打ち出しつつある中、教育施設の新たな活用も考えていかなければいけないのではないか。	第3回	施設の複合的な活用については関係各課と調整を諮りながら進めていきたいと考えています。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
61	意見・提案	43	基本計画 13 学校教育の充実	施策の指標	第3回	本来、ゼロを目指すべき内容で、子どもたちにはケアが必要であるので、取り組んでいきます。
62	質問	45	基本計画 14 産業振興と就労環境の整備	詳細施策	第4回	「仕事と私生活がバランスよく調和が取れている」といった、働く意欲を保ちつつ、私生活も充実しているというものをイメージしています。
63	意見・提案	45	基本計画 14 産業振興と就労環境の整備	詳細施策	第4回	「働きやすい環境づくり」という言葉は、ワーク・ライフ・バランスも含まれた意味合いで使用しています。また、「7 共生社会の実現」のところでワーク・ライフ・バランスを謳っており、この男女共同参画からのアプローチがメインアプローチになります。
64	質問	45	基本計画 14 産業振興と就労環境の整備	詳細施策	第4回	これまで行ってきた取組については、全てに力を入れて、充実させて継続していきたいと思います。また、企業誘致に関しては、工場の跡地などの土地の利活用が工業用地としてしっかりと図られるよう、市からの支援や紹介を強化していきます。
65	意見・提案	45	基本計画 14 産業振興と就労環境の整備	施策の指標	第4回	指標①については、委員ご指摘のとおり新規の創業の件数のみをカウントした数値として記載しています。指標②については、企業の撤退を予測することが困難です。減少する数字は国の統計によって判断せざるを得ず、経済センサスが始まったばかりのため、どういう形でデータの提供があるかわからないため、ここではご提案として、今後の検討材料とさせていただきます。
66	質問	46	基本計画 15 小田原ならではのものづくりの振興	施策の指標	第4回	ここであげている指標は、地場産業のPRのイベント等、ごくごく限定されているイベントの来場者数等を指標として使用しています。各イベントが、現在大変盛況であることから、この盛況さを維持していきたいということで、指標の数値はほぼ現状維持ということで設定しています。
67	意見・提案	47	基本計画 16 商業の振興	施策の指標	第4回	指標②にある「商店街活性化アドバイザー」について、どのような仕組みなのか。また、良い効果を上げているようであれば、今後も力を入れてほしい。

No	種別	ページ	該当箇所		委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
68	質問	48	基本計画	17 観光まちづくりの推進	現況と課題		観光ニーズについてどのような手法で調査をおこなっているのか。
						第4回	昨年度の観光戦略ビジョン策定に合わせ、外国人観光客については小田原駅の観光案内所でアンケート調査を行いました。現在、観光協会の機能を強化して地域DMOを設置していきたいと考えており、そこでは様々な手法を用いてマーケティングを分析し、ターゲットの抽出やニーズに対応を取っていききたいと考えています。
69	意見・提案	48	基本計画	17 観光まちづくりの推進	詳細施策		水産業など、色々な観光資源があるが、各種イベントなどの横の連携を図り、総合力として観光客を入れ込むなどの仕掛けづくりが必要なのではないか。
						第4回	小田原の観光の目指す方向として、様々な観光資源や観光に関わる団体の方を一元的にとりまとめて進めていくことが重要と考えます。そのため、観光推進体制の強化を図ることとしていますが、その中でも、これまでイベント中心だった観光から、様々な観光資源を巡っていただく「日常から来ていただける観光」に力を入れていきたいと考えています。
70	意見・提案	48	基本計画	17 観光まちづくりの推進	詳細施策		バリアフリーの環境の整備や、多言語表示についての考えは？まち歩きアプリケーションを開発するにしても、障がい福祉課と連携して障がい者団体の人たちの意見を聴かないと、使い勝手が悪いものになってしまうか。バリアフリーの観点も忘れずにやっていただきたい。
						第4回	バリアフリーについては、観光の分野だけで完結するものではありません。まち全体のバリアフリーの取組として、「28 快適で魅力ある生活空間」や「29 安全で円滑な地域交通の充実」の方の詳細施策で取り組みを進めていくこととしています。多言語化の対応についてもしっかりと対応をしていきます。
71	質問	48	基本計画	17 観光まちづくりの推進	施策の指標		日本の人口が減少し、外国人の観光客が一巡した流れの中で、指標①入込観光客数や②観光消費総額は思い切った目標値に見えるが、いかがか。
						第4回	小田原市観光戦略ビジョンの数値と整合性を図った数値を置いています。日常の観光を増やすということと、城址公園の環境づくりをもっと魅力的にするということを中心とした目標にしています。また、オリンピック、パラリンピック、ラグビーW杯といったイベントも控えており、外国人観光客を踏まえて数字を算出しています。小田原の観光資源はPRすることによって、まだまだ多くの観光客に来ていただける魅力があると考えており、観光に関わる人たちと力を合わせて目標に向かっていきます。また、観光消費額については、入込観光客数の増加と、新たな消費を喚起し1人当たりの単価を伸ばすという掛け合わせで考えています。
72	質問	50	基本計画	18 農林業の振興	詳細施策		鳥獣被害について、現在の小田原市の状況と、今後どのように対策するのか伺いたい。
						第4回	イノシシをはじめ、シカの目撃事例もあり、市としても非常に重要な課題であると認識しています。JAかながわ西湘と協議会をつくり、箱農の貸し出しや農地に柵を張り巡らせるための補助など、様々な対策を行っています。被害が増大傾向にあるので、支援の拡充を図っていきます。
73	意見・提案	50	基本計画	18 農林業の振興	詳細施策		農業経営者と一般市民のつながりを強化するための取組について、どのように考えているか。継続的に関われる取り組みについても検討いただきたい。
						第4回	農地の保全や体験イベント、交流体験事業などを拡張していく中で、市外の方に小田原にも来ていただき、付加価値をつけていきます。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
74	意見・提案	50	基本計画 18 農林業の振興	施策の指標	第4回	各種施策を実施し、農業という具体的な職の向上を目指すことで、500万円以上の経営体の割合を増やすということで指標①を設定しています。ただ、ご指摘のとおり項目がいくつかあり、農業の課題としては耕作放棄地、鳥獣被害、担い手不足などの具体的な課題などもあるので、ご提案があったことをしっかり展開できるよう検討します。
75	意見・提案	50	基本計画 18 農林業の振興	詳細施策	第4回	「小田原いちばやさい」については、市場を通過する中で目利きの人が「これは良いよ」という事業展開をしていきたいと思えます。下中たまねぎや片浦レモン、十郎梅やオリーブといった一つ一つの品物については、これからも当然行っていきます。
76	質問	50	基本計画 18 農林業の振興	施策の指標	第4回	販売額ということで書かせていただいております。年々農家の数が減少傾向にあり、我々としては新規就農を含めて何とか分母の現状維持をしていきたいと考えています。
77	質問	52	基本計画 19 水産業の振興	詳細施策	第4回	官民一体の協議体を組織し、イベント等でのカマス棒の出店、地魚を扱う店舗に愛用店としての登録制度、四季の代表魚など、小田原の魚全体のPRを行っています。
78	意見・提案	52	基本計画 19 水産業の振興	詳細施策	第4回	四季の代表魚として8魚種を選定したところですので、特にその魚を中心にPRをしていきます。
79	意見・提案	50 52	基本計画 18 農林業の振興 19 水産業の振興	詳細施策	第4回	農業分野では、担い手不足の問題については構造改革特区を活用するなど、企業が参入できる仕組みなどの提案を行ってきました。また、大学や農業アカデミーなどへの地道な活動も行ってきていますが、新規就農や定年帰農者など、もっと幅広い担い手の仕組み作りについて今後研究していきます。水産業については、小田原漁港の整備に合わせて、蓄養水面を整備し、魚の安定供給の取組を始めていくところです。今後も関係者と話し合いながら、漁業の活性化に努めます。
80	意見・提案	53	基本計画 20 歴史資産の保存と活用	詳細施策	第4回	実際のところ、城址公園の利用や観光と、歴史資産の保存ということがバッティングするような感覚がある。歴史資産として整備、管理するのであれば、観光の資源としてしっかり活用できるような形を考えてほしい。観光と保存活用のところについては、しっかりと連携をとって考えた計画にしてほしい。

No	種別	ページ	該当箇所		委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
81	質問	53	基本計画	20 歴史資産の保存と活用	詳細施策	史跡小田原城跡本丸・二の丸整備構想と、城址公園の樹木の管理の整合性は取れているのか。	第4回 城址公園の部分については、平成5年に本丸・二の丸整備基本構想を策定し、整備を進めてきましたが、ここでは緑の管理についてきちんとは書き込まれていませんでした。現在は、史跡小田原城跡調査整備委員会の下部組織として、植栽専門部会をつくって議論を進め、その蓄積がされてきました。今後はこれらの知見を生かした基本構想の見直しを進め、きちんと整合性を取ってやっていけるようにしていきます。
82	意見・提案	53	基本計画	20 歴史資産の保存と活用	詳細施策	詳細施策「③博物館構想の推進」の内容について、詳細な説明を聞きたい。ハコモノをどこかに建てるということなのか、フィールドミュージアムを推進していくのか。後期基本計画の計画期間の中で、どこまでを着地点として考えているということが分かるような表現をしておくべきではないか。	第4回 本年7月に博物館構想策定委員会から基本構想に係る答申をいただき、その中では郷土文化館の移転も含めた新しい博物館を中核館と捉え、まち全体を博物館と見立ててこれを展開していく「まると博物館」という構想が提言されています。
83	質問	53 54	基本計画	20 歴史的資産の保存と活用 21 文化・芸術の振興	詳細施策	P53.詳細施策「④歴史都市としてのまちづくりの推進」とP54.詳細施策「③小田原ゆかりの文化の保存と活用」の違いが分からないので説明いただきたい。	第4回 ④は、平成23年6月に国から認定を受けた「歴史的風致維持向上計画」に基づき、古き良き建物を保存活用しようという視点、昔からの伝統的な活動や文化を次世代に継承していこうという視点で、ハードとソフトとが一体となってつくり出す良好な環境である小田原固有の「歴史的風致」(城下の祭例大祭、水産加工業、板橋周辺、伝統工芸、梅の栽培、柑橘栽培)を維持向上させる取り組みです。 ③は、豊かな風土や歴史に育まれた生活文化や北原白秋の童謡をはじめとした文学遺産など様々な小田原ゆかりの文化を守り伝えるとともに、市民とともに由緒ある建築物などの資産を生かしたまちづくりを進める取組であり、④と連携しながら進めていくものです。
84	質問	54	基本計画	21 文化・芸術の振興	詳細施策	芸術文化創造センターの整備について、南足柄市との合併も含んだあり方についての協議が始まったなか、合併の整合性との観点で考えを伺いたい。また、本市の財政事情との整合性ということで、拠点整備というものの考え方を確認したい。	第4回 本市の財政事情を鑑みながら、市民会館の建て替えも考慮して、合併にかかわらず整備をする必要があると考えます。
85	意見・提案	54	基本計画	21 文化・芸術の振興	詳細施策	由緒ある建築物の保存・活用など、どの建築物がどちらの所管なのかというところをしっかりと整理して進めてほしい。連携して進めるのは非常に良いが、どちらの所管かはっきりしなくて、どちらも手を出さないということは避けてほしい。	第4回 平成26年度に歴史的建造物担当課長を設置し、民間所有の歴史的建造物の保全活用等を担当するにしています。文化部内で文化財指定物件など主要な建築物の管理等を行っているので、文化部内の連携を中心に公有、民有のものをしっかりと守っていきます。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
86	意見・提案	54	基本計画 21 文化・芸術の振興 詳細施策	地域交流を作り出すのは福祉やまちづくりだけの役割だけではなく、文化の役割でもある。地域コミュニティのためにも、地域交流を促すような文化施設の働きを期待する。	第4回	市民ホールの使命の一つに「施設の提供(集い交流する《施設運営》)」を掲げており、芸術文化の力で地域の社会的課題を解決することを目指しています。
87	質問	54	基本計画 21 文化・芸術の振興 施策の指標	指標の①はアウトリーチの実施回数で、②はそれに参加した児童数と理解してよいのか。	第4回	指標①については、これまで学校を中心に行ってきたアウトリーチを病院や福祉施設、自治会のようなところにも広げていき、また、内容も幅広いものにしていきたいという趣旨です。指標②については、アウトリーチに参加する児童の数を増やすという指標です。
88	意見・提案	54	基本計画 21 文化・芸術の振興 施策の指標	アウトリーチの意味するところが全く分からない。中身が見えてこないのだが、誰が誰に対するアウトリーチを行い、そこで何をするのか。	第4回	アウトリーチは、文化の新たな担い手となる子どもたちの豊かな情操、創造力、感性等を育むため、音楽、バレエ、伝統芸能等の芸術家を小学校等へ派遣し、子どもたちが質の高い芸術文化を鑑賞・体験できる事業です。
89	意見・提案	55	基本計画 22 生涯学習の振興 施策の指標	指標①に「生涯学習講座受講者数」があるが、学んだ成果を生かす環境づくりが非常に重要なため、必ずしも指標にせよという意見ではないが、受講が終わった後、実際に活動を始められた方の割合にも着目してほしい。	第4回	「生涯学習講座」の中には内容が趣味教養にあたるもの、民間実施のものも含まれ把握が難しいものもありますが、市が実施する人材育成講座については、受講後についてもご指摘のとおり活動状況の把握に努めます。
90	意見・提案	55	基本計画 22 生涯学習の振興 詳細施策	「④図書館の機能と役割の充実」について、図書館にパソコンを置いたり、インターネットを活用できるというような状況を整備することも、生涯学習の1つとして非常に有効だと思われる。市でも、図書館へのパソコンの配置というものを検討してほしい。端末の数が非常に限られており、もう少し広くなれば検索以外のコンピューターの機能として活用できるのではないのか。	第4回	インターネット閲覧用のパソコンは、利用時の操作音の発生に対して、他の利用者への配慮をするために、管理が行き届く限られた場所に設置しています(かもめ3台・市立2台)。また、利用時間も公平性を期して1人1日1回1時間以内として運用しています。現時点では厳格化した利用時のルールの厳守や機械的な制限をかけることができない限り、検索以外の機能の活用は難しいと考えます。
91	質問	55	基本計画 22 生涯学習の振興 詳細施策	駅前の広域交流拠点整備は民間の事業になってくるが、図書館機能の整備の可能性はあるのか。	第4回	駅前のお城通り再開発については、民間事業者を募集する際の要求水準書にも図書施設ということを明記しています。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
92	意見・提案	55	基本計画 22 生涯学習の振興	詳細施策 市民活動が活発になってくると活動の場の提供が必要になってくるが、そのあたりの考えを聴きたい。市民が活動するときに施設が不足しており、予約がなかなか取れない。例えば学校の空き教室や図書館、保健センターなど、規制緩和をしなければ使えない状況だが、今後の課題として取り組むべきではないか。	第4回	社会教育委員会議の中でも地域における学びの場のあり方という答申をいただいたところです。既存施設を柔軟に、弾力的に捉えて、行政内部の横串を刺し、場の展開や提供に努めます。また、地区公民館とも連携をし、場の充実に努めます。
93	意見・提案	53 54 55	基本計画 20 歴史資産の保存と活用 21 文化・芸術の振興 22 生涯学習の振興	詳細施策 博物館、芸術文化創造拠点、図書館といった施設の整備に関するものが、別々の施策で記載されているが、今後実際の整備にあたって施設の合築・複合化というのは考えられないのか。もし考えられるとしたら、それを明記した方が良いのではないか。	第4回	それぞれ、現時点で熟度等が異なっており、計画においては別の施設ということで考えています。
94	意見・提案	56	基本計画 23 生涯スポーツの振興	詳細施策 現況と課題のところではオリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップといったことが書かれているのだが、詳細施策になるとそのあたりが消えてしまっている。例えば、パラリンピックのためにどうのことを準備していくのかなど、あまり見えてこない。まちづくりのせっかくの機会なので、観光的な部分だとか、重点的、象徴的なところが詳細施策の中に出てくると良いのではないか。	第4回	オリンピック等をスポーツ振興の1つの機会として十分に活用していきたいと考えていますが、具体的にそれをどういう風に展開していくのか、取り扱っていくのかについては、事業を企画実施する中で詳しく考えていきます。
95	意見・提案	56	基本計画 23 生涯スポーツの振興	詳細施策 ツーデーマーチは非常に象徴的な事業で素晴らしいが、鉄道各社などは「駅からウォーキング」などで多くの参加者を集めているので、連携して取り組んでいったらどうか。	第4回	これまでも、多くの民間の力を活用していきたいという思いで取り組んできましたが、今後もその視点をもって取り組んでいきます。
96	質問	56	基本計画 23 生涯スポーツの振興	基本方針 「誰もがスポーツに親しめる」という言葉の中には、障がい者も含まれているのかどうか。	第4回	「誰もが」には当然障がいのある方も含んでいると考えています。
97	質問	56	基本計画 23 生涯スポーツの振興	詳細施策 現況と課題の「障がい者スポーツ振興」という中で、どういう方向で進めようとしているのか。	第4回	障がい者という言葉を使って、施策で特出しをして触れることはしていませんが、障がい者スポーツの振興は非常に大事な視点であると考えながら事業展開をしていきます。スポーツ関係団体と福祉の分野の団体とが連携を図りながら、一体となって障がい者スポーツの振興を図っていきます。
98	意見・提案	56	基本計画 23 生涯スポーツの振興	施策の指標 「ツーデーマーチ」の中身が分からないので説明いただきたい。	第4回	ツーデーマーチは、小田原、箱根、真鶴、湯河原を会場に開催されるウォーキングのイベントです。2日間の開催で全国各地から延べ10,000人近くの参加があります。
99	意見・提案	58	基本計画 24 環境再生・保全活動の推進	詳細施策 「森里川海オールインワン」という概念について、後期基本計画の特徴として前面に打ち出し、16ページの基本理念に入れたらどうか。	第5回	ご指摘いただいた点について、基本理念のある基本構想部分は今回見直しは行いませんが、「森里川海オールインワン」の概念については重要であると捉えており、23ページの重点テーマとして扱っていく方向で考えています。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
100	意見・提案	58	基本計画 24 環境再生・保全活動の推進 詳細施策	詳細施策③「環境学習・環境配慮行動の推進」中、小田原市独自の環境認証基準の詳細が分からないので伺いたい。58ページの表現だと、厳格な認証制度が作られるような印象を受けてしまうが、すでに行われている環境保全に資する取り組みを市としてゆるやかに支援していくのであれば、それが正確に伝わるような工夫が必要ではないか。合わせて、例えば認証制度ができた場合、認証件数が市民活動の進捗を図れる指標になり得るのではないか。	第5回	現在の認証制度は、環境活動のインセンティブとなるようなものを考えており、指標にそぐわないため、指標にはいたしません。ただし、【詳細施策】③3行目については、ご指摘のように趣旨が正確に伝わるよう「小田原独自の環境認証を行い」という表現に変更します。
101	意見・提案	58	基本計画 24 環境再生・保全活動の推進 詳細施策	通常、ブランドと言うと地域の活性化を目指したものになるが、詳細施策①にある「環境先進都市・小田原のブランド」について、目指しているものは何があたるのか。「ブランドを確立します」と言っているが、もう少し具体的なイメージが出るような形で記述した方がよいのではないか。	第5回	「ブランドの確立」は環境が良好な都市のイメージを示すものであり、具体的に「こういったものが小田原ブランド」という指標を確立するものではないため、表現の追記は行いません。
102	質問	58	基本計画 24 環境再生・保全活動の推進 詳細施策	「環境先進都市・小田原のブランド」について、想定事業の中で関連するものはどれか。	第5回	想定事業中「森里川海インキュベーション事業」というものがありますが、この中で「環境志民ネットワーク」と大学等で連携しながら活動が広がっていく事業を考えているところであり、これを通じて森里川海の小田原ブランドを、経済的に回しながらうまく作っていきます。
103	意見・提案	58	基本計画 24 環境再生・保全活動の推進 施策の指標	「市民の主体的な」という観点からいうと、指標②は公共施設への再生可能エネルギーよりも市民に関する指標の方がよいのではないか。	第5回	「市民の主体的な環境再生・保全活動」に係る指標は指標①「環境再生事業参加者数」で考えています。
104	質問	58	基本計画 24 環境再生・保全活動の推進 施策の指標	指標②の公共施設への再生可能エネルギー導入について、どういう方法で行っていくのか。	第5回	入札なのか、プロポーザルなのかといった課題はありますが、公共施設でのエネルギーの使用や、県で行っているエネルギーの地産地消などをうまく取り込んで導入していきたいと考えています。
105	意見・提案	59	基本計画 25 廃棄物の減量化・資源化の推進 基本方針	これからは事業者の果たす役割が大きいと考えているが、行政は事業者の役割をどう考えているのか。こういう基本方針を達成していくために、どのような施策を行うのかという施策展開の道筋が分かるような計画であってほしい。	第5回	減量化や正しい分別に努めていただく「排出者としての事業者」と、市と連携して取り組む「ごみの処理に係る事業者」の二通りがあると考えています。基本方針を達成するための施策については、すでに【詳細施策】及び想定事業一覧に示していると考えているため、特に表現の変更は行いません。
106	質問	59	基本計画 25 廃棄物の減量化・資源化の推進 詳細施策	1人1日あたりのごみ排出量の減量化について、目玉事業がほしいところだが、想定事業の中でそれに当たるものがあるか。	第5回	詳細施策①の最後にごみの有料化の検討を記載していますが、他市の事例をみると、有料化をすれば大きくごみの減量化が進むと考えています。
107	質問	59	基本計画 25 廃棄物の減量化・資源化の推進 詳細施策	前期のふりかえりでは平成32年度を目標に新しいごみ処理体制を目指すと言われているが、今回の「広域化を視野に施設整備や手法を検討します。」という詳細施策は、前期の目標を前提としつつという理解で良いのか。	第5回	平成32年度の目標自体はまだ掲げていますが、実際難しい部分もあるので、検討している最中です。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)	
108	意見・提案	59	基本計画 25 廃棄物の減量化・資源化の推進	施策の指標	第5回	現況と課題に「1人1日当たりのごみ排出量は、全国平均よりも多い状況が続いている」という現状認識があるが、最終的に1人あたりのごみ排出量はどうなったかの指標が無い。「1人あたりのごみ排出量」の指標をここに載せていただきたい。	ご指摘の通り、市民がよりイメージしやすいように、指標を「燃せるごみ排出量」から「ひとりあたり燃せるごみ排出量」に変更します。
109	質問	60	基本計画 26 良好な生活環境の保全と形成	基本方針	第5回	小田原市でごみ屋敷状態になっている事例はどの程度あるのか。また、ごみ屋敷は福祉の問題が強いものでもあるが、他の政策でも取り組む考えはあるのか。	小田原市ではそれほど件数は出ていないので、条例化はせずに個別に対応している状況です。
110	意見・提案	61	基本計画 27 自然環境の保全と再生	施策の指標	第5回	「自然環境の保全と再生」ということと言えば、「木材流通量」よりもふさわしい指標が検討できるのではないかと。	詳細施策①の森林再生については、木材の間伐や流通量が捉えやすいと考えて設定しています。ただ、直接的な指標ではない部分もあるので、例えば森林整備を実際に行った数字など、適当な指標があれば変更を含めて検討します。
111	質問	61	基本計画 27 自然環境の保全と再生	施策の指標	第5回	県でも水源環境保全税を導入して、県西2市8町だけでも間伐材を12,000立方メートル流通させている。県との施策の関係についてどのように考えているか。	現在置いている木材流通量は、小田原産認証製材品として取り扱っているものに限った数値です。指標としては設定しているが、各種調査を進める中で製材品だけで見ていくのは木材の流通と生産量を考えていくのに適切ではないという考えもあり、森林整備などで指標設定できないかも検討しています。県の施策との連携について、市で行っている森林整備は水源環境保全税の活用が前提となっているので、今後も県と連携しながら事業を進めていきたいと考えます。
112	意見・提案	61	基本計画 27 自然環境の保全と再生	施策の指標	第5回	詳細施策の中で里山の再生が謳われているが、想定事業の方では具体的なものが見えない。そういう施策があるのであれば、指標②のところで植林をした本数や面積などで表現をすると、里山の再生について目標が立てやすいのではないかと。	広葉樹林を作る方法は、伐採地に広葉樹を植栽する方法と、今ある人工林を抜き切りしながら広葉樹を育て、樹種層を交代させる針広混交林の二通りの方法があります。県では、皆伐や植栽が発生するような伐採は積極的に行っていないところがあるので、森林整備や間伐等の森林整備を進めながら広葉樹を育てていくのが現実的だと考えています。そのため、指標を森林整備にすると、その取組なども調和すると思われます。また、環境部としても主体的に広葉樹の植樹を行うのではなく、森里川海インキュベーション事業を通じて民間の取組をサポートしていきます。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
113	意見・提案	62	基本計画 28 快適で魅力ある生活空間づくり		第5回	詳細施策①「計画的な土地利用の推進」の中で、立地適正化計画の策定などを進めており、個別計画の中で体系立てて施策の方向性を示していくことになります。
114	質問	62	基本計画 28 快適で魅力ある生活空間づくり		第5回	デベロッパーヒアリングの結果、建設費の高騰が沈静化することが前提となりますが、小田原駅周辺では年間50から150戸の需要は見込めるという話をいただきました。優良建築物等整備や再開発など、共同化による土地の有効活用により、駅周辺の魅力を高め、都市機能の誘導に努めます。
115	意見・提案	62	基本計画 28 快適で魅力ある生活空間づくり	基本方針	第5回	ご指摘を踏まえ、【基本方針】に集約型都市の形成についても表記します。
116	質問	62	基本計画 28 快適で魅力ある生活空間づくり	詳細施策	第5回	都市機能や居住機能の集約を図るためには、民間活力の活用が必要であり、高度地区の現在の状況や、それをどのように見直したらよいかについては検証をスタートしたいと考えています。
117	質問	62	基本計画 28 快適で魅力ある生活空間づくり	詳細施策	第5回	基本的に災害リスクの高い区域への居住の誘導は行いませんが、想定される災害の程度に応じた対策が行われているかどうかを検討し、安心安全な居住誘導を図る観点を持った計画としていきたいと考えています。

No	種別	ページ	該当箇所		委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
118	意見・提案	62	基本計画	28 快適で魅力ある生活空間づくり	詳細施策	第5回	<p>鉄道駅を中心とした拠点を設定し、都市機能を誘導することで魅力を高め、人の流動につなげていきたいと考えています。また、利活用が可能な空家情報の発信や快適な住環境の形成、共同化による土地の有効活用などにより、定住の促進につなげていきたいと考えています。</p> <p>併せて、詳細施策④についても踏み込んだ表現に変更します。</p>
119	質問	62	基本計画	28 快適で魅力ある生活空間づくり	詳細施策	第5回	<p>立地適正化計画は都市機能を集約していくものであり、公共的な施設についても含まれています。計画書の70ページ「34 自立した行財政運営の推進」の詳細施策②「公共施設の最適化」で、公共施設再編の関係の記述をしているところであり、想定事業として「公共施設マネジメント事業」を置いています。立地適正化計画と連動させながら検討を進めていきます。</p>
120	質問	63	基本計画	28 快適で魅力ある生活空間づくり	詳細施策	第5回	<p>街路樹の整備や維持管理のガイドラインを作成し、質の向上に取り組めます。</p> <p>資金循環については、「ふるさとみどり基金」を原資として緑化の推進に有効活用していきます。基金をPRし、寄付を増やし、それを循環させます。</p>
121	意見・提案	63	基本計画	28 快適で魅力ある生活空間づくり	詳細施策	第5回	<p>緑の基本計画の中で生産緑地についても触れており、基本的には都市の中の貴重な緑を守っていきたいと考えています。計画では、公園が足りない地域で、生産緑地を活用していきます。今後重要な課題です。</p>
122	質問	63	基本計画	28 快適で魅力ある生活空間づくり	施策の指標	第5回	<p>「身近な公園プロデュース事業」は都市公園法上という「街区公園」と言われる地域にある小さな公園を対象にしています。</p>

No	種別	ページ	該当箇所		委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)	
123	意見・提案	63	基本計画	28 快適で魅力ある生活空間づくり	施策の指標	詳細施策④「快適に暮らせる住環境の形成」があるが、指標の中に空家をどれだけ活用したかを設定できないか。あるいは、それができないとしてもP40「10 安全・安心の地域づくり」にある指標③「空家率」を再掲したらどうか。	第5回	空き家バンク制度によるマッチングを行っていますが、関係団体の協力を得ながら、空き家の利活用を進めていきたいと考えています。ご指摘いただいた指標については再考します。
124	意見・提案	64	基本計画	29 安全で円滑な地域交通の充実	詳細施策	前の施策では集約型都市構造について書かれているが、施策29ではそれに触れられていない。「都市構造にどう影響するかという観点から見直す」ということを入れていただきたい。また、交通であるともう少し指標が設定できる気がする。渋滞率や渋滞解消率など、そういった数字があるとここに書いてあることが計れるのではないか。	第5回	立地適正化計画の中で詳細を検討しているところであり、ご指摘いただいた点を踏まえて、基本方針の内容などを修正します。
125	意見・提案	64	基本計画	29 安全で円滑な地域交通の充実	詳細施策	バスの減便の問題や新たな交通手段の施策について、後期基本計画では取り組んでいくべきではないか。	第5回	平成25年3月に策定した「小田原市地域公共交通総合連携計画」において、橋地域をモデル地区に位置づけ実証運行を行っています。そこで出た課題やメリットを整理し、市域に広げていきたいというのが大きな流れです。また、公共交通に不便な地域の申出のルールをつくりましたので、申出があった場合は路線バスの検討を行い、バスが難しいようであれば他の交通を考えるようなスキームも作っています。
126	質問	65	基本計画	30 安定した水供給と適正な下水処理	目指す姿	「目指す姿」は平成34年に実現している姿を描くものであり、「いつまでも」という表現は未来進行形のため、そぐわないのではないかと。	第5回	平成27年4月に「おだわら水道ビジョン」を改定し、その中で「いつまでも 安心で おいしい水をお届けします」という基本理念を作っており、後期基本計画でも目指す姿と判断し記載しています。指摘を踏まえ、「目指す姿」の「いつまでも」を削除します。
127	意見・提案	65	基本計画	30 安定した水供給と適正な下水処理	施策の指標	災害上、水の問題は非常に重要な問題だと思う。例えば、38ページ「8 災害に強いまちづくり」にも「管路の耐震化率(水道)」を入れるなど、他の項目と連携した指標設定でも良いのではないかと。また、指標③「料金回収率(水道)」の目標値が100%を超えているのはなぜか。	第5回	料金回収率については「給水に係る費用が料金収入でどの程度賄われているか」を示すものであり、徴収率とは別のものです。「8 災害に強いまちづくり」で位置付けている施策・事業は、直接「管路の耐震化率(水道)」を上昇させるものではないため、ここで再掲することはそぐわないと考えています。
128	意見・提案	65	基本計画	30 安定した水供給と適正な下水処理	施策の指標	指標①「管路の耐震化率(水道)」について、もう少し高い目標値を設定した方が良いのではないかと。	第5回	限られた財源の中で優先順位を定め、万が一のときに市民生活に大きな影響を与えてしまうような基幹管路や、病院、配水池に送水している管から優先的に耐震化を行っています。これらの管は口径が太いことからなかなか率が上がりませんが、できる限り高い更新率を目指して取り組んでいきます。

No	種別	ページ	該当箇所		委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)	
129	意見・提案	65	基本計画	30 安定した水供給と適正な下水処理	施策の指標	指標②「下水道人口普及率」があるが、下水道以外の地中型排水や合併処理浄化槽といった手法も含めて表現すると、適正な下水処理という趣旨に適用ではないか。下水道だけで表現するのであれば、下水道区域内の普及率、処理人口とした方が正確なのではないか。	第5回	ご指摘を踏まえ、指標の変更を検討します。
130	意見・提案	67	基本計画	31 協働による地域経営	目指す姿	市民と行政は違った立場であり、「対等な立場で」というのは素朴な疑問を感じる。なぜこの言葉を入れたのか。また、現状どのように思っているのか。この言葉が入っていること自体が不自然な感じで、市はどう考えているんだろうと疑問が出てきてしまうのではないか。	第6回	下記のとおり、「対等」という言葉が大事であるというご指摘もいただいているので、それぞれのご指摘を踏まえて検討します。
131	意見・提案	67	基本計画	31 協働による地域経営 32 市民活動の促進	目指す姿	協働の推進において、本当に相互の信頼関係を築いていくためには、いったんそういう立場を横に置いて話し合っていかなければならない。そういった場合に「対等」というのが謳われていると、行政側も自己抑制するし、市民の側も自信を持って話をするという関係が築かれる。この「対等」という言葉は現時点で非常に重要だと思う。	第6回	同上
132	意見・提案	67	基本計画	31 協働による地域経営	現況と課題	「地域コミュニティ」という言葉が分かりづらい。「自治会」という言葉との違いが分からない。市民の方に、「地域コミュニティで仕事をしているんだぞ」という気概を持っていただけるような、意味のある積極的な言葉であってほしい。	第6回	「地域コミュニティ」という言葉は、自治会、民生委員、民児協、社会福祉協議会、青少年育成会、連合子ども会など、地域で活動される皆さん全体を総称しているものです。
133	質問	67	基本計画	31 協働による地域経営	詳細施策	詳細施策①②が前期振り返りに見当たらないが、この5年の間に、この施策を打ち出す必要が出てきたのか。	第6回	詳細施策①(まちづくり学校)については前期振り返りへの掲載に漏れていました。この事業では、市民と職員が、共に学び、取組を考え、実践につなげる場として、ワークショップや講座を年3回ほど実施しています。詳細施策②については、施策としては掲げておりますが、事業が紐づいていないため、前期振り返りに掲載しておりません。
134	意見・提案	67 68	基本計画	31 協働による地域経営 32 市民活動の促進	詳細施策	「市民」の概念について、一般的には自然人である市民と法人の両方が含まれていると思うが、「32 市民活動の促進」の詳細施策②「協働事業の実施」の中では、事業者と企業にも担い手として地域で役割を果たしていただくこともあってしかるべきだと考える。そういった考えも盛り込んでいただきたい。「市民活動団体」だけでは、企業や事業者が読み取れない。	第6回	自治基本条例では、「市民」の定義を、「市内に居住し、通学し、又は通勤する個人及び市内において事業を行い、又は活動を行う個人又は法人その他の団体」としており、「市民」の表現は変更しませんが、ご指摘のとおり企業や事業者も含めて捉えています。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
135	質問	67 69	基本計画 31 協働による地域経営 33 情報共有の推進	詳細施策 現況と課題	地域コミュニティ組織の権能強化を目指しているのか。また、いつごろまでに地域コミュニティ組織が目指す姿になるのか。	第6回 地域コミュニティ組織は、将来的には地域を代表して意見表明ができるような組織に進化していくような、そういう施策を講じていきたいと考えています。各地区で取組の内容が様々なケースもあり、規模の大小もあることから、分科会型の地域コミュニティ組織が取り組む課題の幅を広げることが、一つの目標であると考えています。小規模多機能自治組織のような権能の強化については、国の動向も見ながら検討します。
136	質問	67	基本計画 31 協働による地域経営	詳細施策	公民館の老朽化や修復、建替えの支援も、この事業に含まれるのか。	第6回 ご質問のとおり、地区公民館への建設費・修繕費の市の補助については含んでいます。なお、詳細施策③に「地域活動の拠点確保に向けた取組を進めます。」と記載しており、協働による地域経営を進めるうえでは活動の場は非常に重要で、それぞれの確保については努めなければならないという認識でおりますが、確保には多様な方法があると考えています。
137	意見・提案	67	基本計画 31 協働による地域経営	詳細施策	地域コミュニティ組織の拠点について、多様な形で活動拠点を確保していくということで、ぜひ頑張ってください。	第6回 意見として拝承
138	意見・提案	67	基本計画 31 協働による地域経営	詳細施策	地域別計画の中の取組が所管にまたがっているので、窓口の一本化ということも必要なのではないか。	第6回 今でも地域コミュニティ組織に関わる時に、まず地域政策課の地域担当職員が中心となり、組織とのコミュニケーションを図っています。それ以外にも地域の協働で取り組む事業は複数あり、様々な分野での取組があるので、地域政策課で情報を集約し、地域の状況を役所の中で共有するよう庁内連絡会を設けています。最終的に、地域コミュニティ組織の中で地域の取組が一本化される形になれば、窓口の一本化に近づけると考えています。
139	質問	67	基本計画 31 協働による地域経営	施策の指標	指標②「地域コミュニティ組織参加者数」について、参加者の定義はどう考えているのか。また、目標値の根拠はどのように基づいているのか。	第6回 参加者の定義は、市内26地区にある地域コミュニティ組織の中で委員としてカウントされている方の人数を指しています。目標値の考え方は、地域コミュニティ組織の分科会が現在42ありますが、それが平成34年度には116になると考えています。1分科会あたりの委員の数が10人と想定しており、そこから計算した数が平成34年度の1,520人です。
140	意見・提案	67	基本計画 31 協働による地域経営	施策の指標	指標②「地域コミュニティ組織参加者数」について、目標値が1,500人というのはかなり意欲的な数字だと思う。ぜひ頑張してほしい。	第6回 意見として拝承
141	意見・提案	67	基本計画 31 協働による地域経営	施策の指標	指標③「自治会加入世帯数」について、自治会の本質的な数字は加入率となるが、加入率が目に見えて上がったという実践結果は全国的に無い。そうした中では、「仲間が増えた」ことで自治会活動の輪を広げていくことが大事だと考えている。そういう意味では、加入世帯数を大事にしていくという態度は適切だと考える。小田原市の実情を勘案して、きちんとした数字にしていきたい。	第6回 小世帯、単身世帯の増加により、加入率が低下傾向にあります。コミュニティの活性化のために加入世帯数の維持に努めます。

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)	
142	質問	68	基本計画 32 市民活動の促進	詳細施策	詳細施策①「市民活動の支援」について、後期基本計画では、市民交流センターの運営主体はどこが担うと考えているのか。運営責任は引き続き市が担っていくのか。行政がしっかりと責任をもってやっていただきたいと考えている。	第6回	後期基本計画の期間については、指定管理者制度による管理運営を継続する予定です。
143	質問	68	基本計画 32 市民活動の促進	詳細施策	詳細施策②「協働事業の実施」について、提案型の協働事業は現在時限的であるが、この事業の継続性についてはどのように担保していくのか。	第6回	提案型協働事業の時限最終年度に関わらず、事業実施の際は、今後の協働のあり方の検討をしながら実施するように促しており、終了後も継続しているものもあります。
144	意見・提案	68	基本計画 32 市民活動の促進	詳細施策	横浜市や川崎市では、少しずつ民間の中間支援組織が育つといった経過を辿っている。組織を育成していくという視点をぜひ持ってもらいたい。	第6回	指定管理者と調整しながら、より良い中間支援組織を目指します。
145	意見・提案	69	基本計画 33 情報共有の推進	施策名	「情報共有の推進」という施策名について、「共有」というと若干内向きな印象を持つ。地域外への発信も含んでいるので、「情報の発信と共有の推進」などの方が良いのではないかと。	第6回	「情報共有」とは「情報を伝達し共有(市内外)する」と捉えているため、表現については変更しません。
146	質問	69	基本計画 33 情報共有の推進	現況と課題	「市政に関わりたいという市民の意識も高まっています。」という書かれ方がされているが、投票率が低下している中でなぜこのようなことが書かれているのか、認識を伺う。	第6回	「市政に関わる」というのは必ずしも選挙ということだけでなく、市長への手紙や懇談会などで政策的な提言が増えてきている中で、このように記載をしています。
147	意見・提案	69	基本計画 33 情報共有の推進	詳細施策	詳細施策①の、データを積極的に提供していくことは大変結構で、最近オープンデータという言葉もあるのでぜひ進めていただきたい。ただ、庁内外のスキルアップが必要になると思うので、施策としてITの推進を打ち出しても良いのではないかと。	第6回	情報通信技術の活用自体が当たり前になってきている認識であるため、ITの推進施策を新たに打ち出しておりません。具体の事業展開において、ICTの活用を図ります。
148	意見・提案	69	基本計画 33 情報共有の推進	詳細施策	施策の指標①には「フェイスブックの『いいね!』数」とありながら詳細施策①には「ホームページ」としかない。ITを含めたメディア戦略という考え方が弱いと思われるが、どのように認識されているか。「メディア戦略的な部分に力を入れていきます」という部分が見えてこないのではないかと。	第6回	ご指摘のとおり、SNSを活用した情報の発信・入手手段等も高まっています。そのため、詳細施策①の「などを活用し、」という部分に含めた形で記載させていただいております。
149	意見・提案	69	基本計画 33 情報共有の推進	施策の指標	フェイスブックのようなサービスは、5年経つと古めかしくなってしまう。ホームページは無くならないと思うので、指標②の方が重要度は高いのではないかと。順番を入れ替えていたらどうか。	第6回	ご指摘の通り、指標の順番の入れ替えを検討します。

No	種別	ページ	該当箇所		委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)	
150	質問	69	基本計画	33 情報共有の推進	施策の指標	施策の指標①「フェイスブックページの『いいね!』数」について、どのように増やそうとしているのか。目標値はもっと増やさなければいけないのではないか。	第6回	今までの実績を見ながら、目標値としては倍の数字を設定しています。都市セールスの戦略も定めているので、様々なメディアを通して情報の重ね、小田原ファンを増やしていき、一つ一つの積み重ねで対応していきたいと考えています。
151	意見・提案	69	基本計画	33 情報共有の推進	施策の指標	施策の指標②「ホームページアクセス数」は、場合によっては必要な情報にすぐたどり着かないため、アクセス数が増えている場合がある。単純に増えればいいものではないということは、ぜひ念頭に置いてほしい。	第6回	意見として拝承
152	意見・提案	70	基本計画	34 自立した行財政運営の推進	基本方針	基本方針の「より効果的かつ効率的な行財政運営」という言葉があるが、これを実現していく上で、民間活力をどのように導入するのかという視点が読み取れない。そのような趣旨も盛り込んでいただきたい。	第6回	民間活力の導入については、詳細施策①「行財政改革の推進」記載の(仮)第2次行政改革指針に取組を位置付け、取組を進めていきます。
153	質問	70	基本計画	34 自立した行財政運営の推進	現況と課題	何をもち「最大の効果」で、何をもち「最適な配分」と考えられているのか伺いたい。	第6回	最小の経費で最大の効果を達成するというのは、地方自治法にも書いてあるとおり地方公共団体が目指すべき姿勢だと思われる。「最適な配分」というところは、行政の持っている資源として人、金、モノ、あらゆるものが考えられるが、それを最小の経費で最大の効果があげられるような配分を考えるという意味であるので、意味としては同じ意味になります。
154	意見・提案	70	基本計画	34 自立した行財政運営の推進	詳細施策	詳細施策③「規律ある財政運営」の償還元金以内で決められている投資的経費の部分の考えについて、なぜそのように具体的に決めてしまうのか。歳入を増やしていくための投資的経費、「投資に力を入れていきます」という姿勢が見えない。	第6回	市債の新規発行は元金償還金以内に抑えるというこれまでのスタンスは、基本的に、崩さない形で今後も行財政運営にあたります。一方で、施設の老朽化やインフラ等の長寿命化にも対応していかなければならないので、そうした維持管理、あるいは大規模改修等についてどのくらいのペース・分量で行っていくかは、負債等を減少させていくというスタンスを堅持しつつ、資源配分について目を配っていきます(なお、「未来に向けて投資が必要な政策分野に対してはしっかりと資源配分を行います」の”投資”については、建設的事業の投資的経費のみをさすのではなく、様々な行政需要の中で将来へ向け対応が必要な分野・取組を捉え表現しています)。
155	意見・提案	70	基本計画	34 自立した行財政運営の推進	詳細施策	国から、公会計処理の方法を複式簿記の形にするよう求められているのではないと思う。計画の方に記載した方が良いのではないかと。	第6回	総務省からは、平成30年3月までに統一的な基準による新たな公会計に基づく財務諸表の作成の要請が届いています。それを受け、固定資産台帳等の見直し作業等の財務諸表作成に向けた準備を進めています。地方自治法に基づく単式簿記の予算決算に加え、その補助的活用としての財務諸表の整備によりストックの状況が示されることになり、公共施設の適正配置等のマネジメントに活用が図れるものと考えます。
156	意見・提案	70	基本計画	34 自立した行財政運営の推進	詳細施策	複式簿記の関係について、公会計や財政の状況を市民に示すのは大事なことだと思われる。そういった取組については今後も継続して、工夫をしながら進めてほしい。	第6回	同上

No	種別	ページ	該当箇所		委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)	
157	質問	70	基本計画	34 自立した行 財政運営の推 進	詳細施策	詳細施策④「競輪事業の今後に向けた検討の本格化」について、最終的には答申を出すのかなど、今後の進め方など分かる範囲で伺いたい。	第6回	競輪事業の今後については、過去に答申をいただいております。経営状態が赤字になるかどうか一つの判断基準とされています。ただ、施設の老朽化も進んでおり、施設の統廃合などの関係から、後期基本計画の中で判断せざるを得ないと考えています。具体的に、いつ、どうやってというのは、今の段階ではお示しできませんが、他の施設の統廃合、再配置を含めて、競輪事業の検討も行っています。
158	質問	70	基本計画	34 自立した行 財政運営の推 進	詳細施策	競輪事業については、本格的に今後に向けた検討を行わなければいけない段階に至ったと拝察している。5年前と比べて、事情が大きく変わったようなことがあれば伺いたい。	第6回	同上
159	質問	70	基本計画	34 自立した行 財政運営の推 進	詳細施策	ふるさと納税制度について、税源流出が問題になっている。小田原市の状況はどうか？	第6回	平成27年度は9月から返礼を始めて、7か月間で1億8,100万円の寄附がありました。小田原市民が他自治体に寄附したのは約1億6千万円くらいのため、約2千万円くらいはプラスでした。今年度はだいたい10億円くらいの寄附の見込みがあるが、流出については県民税を付加してみないとわかりません。小田原の場合、返礼品は140品目以上あり、体験型なども揃っています。障がい者の団体のつくる石鹸なども揃えているので、寄附をいただければ障がい者の雇用につながるという、制度の活用を図っていきます。
160	質問	72	基本計画	35 自ら考えて 行動する職員 の育成	詳細施策	前期の振り返りでは、平成23から27年度にかけて、国や県の派遣職員数に幅がある。何か特別な事情があったのか。また、国や県への職員の派遣について、今後どういう方針・考えを持っているのか伺う。	第6回	災害復興の派遣を行った年度については、派遣職員数が増えています。福祉分野など、内部的に人員を補充しなければいけない状況になってきており、今後少しずつ整理をしていかなければならないと考えています。そのような中で、人材育成の一つとして、国、県と交流をしながら派遣をすることには相当の価値、得られるものがあると思っているので、どのような目的で行くのかをしっかりと見定めながら、人数を決めていきます。
161	意見・提案	72	基本計画	35 自ら考えて 行動する職員 の育成	施策の指標	「新採用職員の人事評価の評点」と「職員研修参加者アンケート結果」は、内部で評価された結果だと思われるが、外部から見て職員がどう見えるかということが指標になる必要があるのではないかと。	第6回	人事評価制度については平成18年度から実施し、10年以上を経過した制度です。「内部でまず把握をしたい」という意味の中では、経年で確認をしていくということも踏まえて内部で行っていきたくと考えています。
162	意見・提案	72	基本計画	35 自ら考えて 行動する職員 の育成	施策の指標	人事評価について、外部評価をする、しないということは十分に説明責任を果たすという観点からしてもかなりコストがかかる。事務局の回答でも、それは一つの見識なのではないかと思う。	第6回	同上

No	種別	ページ	該当箇所	委員意見	会議回	市の考え方・対応方法(案)
163	意見・提案	72	基本計画 35 自ら考えて行動する職員の育成	施策の指標	第6回	同上
164	質問	72	基本計画 35 自ら考えて行動する職員の育成	施策の指標	第6回	職種によって評価のウエイトが異なるので、どの部分が上がるかというのは難しいことです。評価はAからEまでありますが、C評価の中間的な点数が68.0点であり、そのうち何か一つの項目が上がれば2点上がるという想定をしています。
165	質問	72	基本計画 35 自ら考えて行動する職員の育成	施策の指標	第6回	研修の対象者は医療職を除いておよそ1,500人です。毎年同じ職員が研修を受けるわけではないので、500人程度が研修を受け、アンケートに答えています。アンケートの内容は、研修を受けたあとの効果を測るような内容、本人にとってためになったかなど、項目ごとに5段階の評価で行っています。
166	意見・提案	73	基本計画 36 広域行政の推進	施策の指標	第6回	大規模災害時の遠隔地の連携は非常に大事だと考えています。連携の部分で言えば、「8 災害に強いまちづくり」に協定の関係があります。また、小田原市は二宮尊徳関係やその他文化交流などの領域で遠隔地とつながりがあるので、そのあたりを分かりやすく表現します。